

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

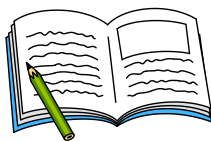
平成29年10月 敦賀市立角鹿中学校

4月18日、3年生対象に「国語」「数学」「生徒質問紙」の3つの調査が行われました。

本校では、現在進めている「小中一貫教育」とともに、「国語」「数学」の結果を参考に、授業や指導方法の工夫改善を進めてまいります。また、「生徒質問紙」の結果をもとに、帰宅後の様子が見えてきました。ご家庭でもお子さんと話題にいただき、より充実した中学校生活となるように声掛けや支援をお願いします。

教科に関する調査結果より (角鹿中3年生の「得意」な部分と「苦手」な部分)

【国語】



描写から人物の具体的な姿を読み取り選ぶ問題

【得意なところ】

- ◎基礎問題では、「言語についての知識・理解」の正答率が県と比べて高い。
- ◎活用問題では、物語の場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題の正答率が県平均よりも高い。
→国語の授業では、漢字や語句を機械的に覚えるだけではなく、その意味や用法についても説明することなど生きた知識が身につくようにしています。

【苦手なところ】

- △書写や古典といった伝統的な知識に関する問題の正答率が県平均より低い。
- △目的に応じて必要な情報を読み取る問題の正答率も県より少し低い。
→「古典音読・暗唱ノート」や「国語便覧」等を用いて語彙力の獲得を目指します。また、書写の基礎的な学習を、書写以外の授業でも繰り返し取り上げます。

楷書と比較したときの行書の説明を選ぶ問題

四則混合の計算や分数の計算問題

【数学】

【得意なところ】

- ◎基礎問題では、単純な計算や文字式の計算などで、県平均を上回っている。
- ◎活用問題では、三角形の合同を利用して説明する問題が県平均を上回っている。
→授業の中で、計算練習に繰り返し取り組んだり計算コンテストなどを利用したりして、計算力を高める取り組みを行っています。
今後も基礎力アップを目標に続けていきます。

半径や中心角がわかっているおうぎ形の弧の長さを求める問題

【苦手なところ】

- △「グラフの活用」「関数」では、県平均を大きく下回っている。
- △おうぎ形の弧の長さを求めたり、円柱の体積を求めたりする力が定着していない。
→グラフ読み取りの基礎知識や、図形の性質について具体物からイメージして理解を図っていきます。また、他者に自分の考えを説明したり、数学用語を使って表現したりするような機会を増やし、理解を深めていきます。



生徒質問紙より (角鹿中3年生の生活実態から見えてくること)

【良好とされるところ】… () 内は県との比較

- 将来の夢や目標を持っていますか (+13. 1)
- 今住んでいる地域の行事に参加していますか (+38. 6)
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか (+4. 5)
- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか (+3. 8)

- ・将来の夢や目標をもつことは、自身の生き方や将来像を描きやすくなります。何事にも意欲的に取り組めるようになります。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもつことは、自分の生き方を考えるうえでとても大切なことです。地域社会の一員として、課題と向き合っていく姿勢は、地域の未来を切り拓く頼もしい原動力となります。



【改善が必要とされるところ】… () 内は県との比較

- 自分にはよいところはあると思いますか (-24. 3)
- 普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか (4時間以上の生徒が約10%と大変多い)
- 読書は好きですか (-15. 0)

- ・自分に自信がないなど、自己肯定感の低さが課題としてあります。
- ・携帯電話やスマートフォンの長時間使用が本校の大きな課題です。長時間使用は、学習習慣の未定着、健康被害、いじめ問題への発展等と、多くの問題をはらんでいます。
- ・読書を好む生徒が少ないことや、読書の習慣がない生徒が多くいます。読書は、あらたな発見や気づきを生みます。また、感性を育てるうえでも大きな役割を果たします。

【改善に向けた取組について】

※自己肯定感や自己有用感を育てるために、互いのよさを認め合ったり、個々の努力の過程や小さな変容を互いに評価し合える関係づくりを強化していきます。

※読書環境を整え、生徒の読書意欲や読書量が増える試みを展開します。

【角鹿中校区小中学校における共通した取組】

①基礎的・基本的内容の定着

→各教科における『児童生徒の弱み』を分析し、克服を目指した授業づくりを行います。

→授業の終末に『振り返り』の時間を設定し、内容の整理と理解の確認に取り組みます。

②家庭学習時間の確保

→家庭学習の成果を試す場を設定し、家庭と学校との『学習のつながり』を強化します。

③SNSに関する正しい知識の理解と使用上のマナー向上

→SNSの活用に関する『小中共通のルール』を設定し、継続した指導に取り組みます。

④活字とふれ合う機会の設定

→『読書意欲』を高めるために図書室の環境整備や優良図書の紹介に努めます。

→新聞記事を活用した『自分の考えを持つ学習』により、読解力の向上を図ります。



